

特定非営利活動法人分析産業人ネット

第 20 期活動報告

令和 5 年度

2023.4～2024.3

令和 5 年度の活動概要

全体の状況

令和 5 年度（2023 年度）は 5 月 8 日にコロナ感染症が 2 類から 5 類に移行して経済活動を行う環境がコロナ前に戻りましたが、日銀のマイナス金利解除は期末の 3 月 19 日となり、米国の堅調な経済活動もあり円安が進みました。一昨年の 2 月にロシアのウクライナ侵攻に端をはった戦争は期中も続き、更に 10 月 7 日にハマスがイスラエルに大規模な攻撃を仕掛けてパレスチナでも戦争状態となり、11 月 19 日にはイエメン沖の紅海でイエメンのフーシ派組織による日本郵船の貨物船乗っ取り事件が発生し、スエズ運河経由の黄海での海上輸送に支障を来しました。このため、石油価格は高止まりし、サプライチェーンの中核である物流システムの混乱等が続き、食料品を始めとした物価上昇が昂進しました。これらの経済情勢は当法人の活動に直接、影響を与えたわけではありませんが、円安等が活動の推進にマイナスに働きました。

事業活動の概要

人材育成事業では、スクール事業が通年開催の通信講座で受講者が増加しましたが、対面で行う講習会は今年度も開催出来ませんでした。資格認定事業は毎年 7 月に全国一斉に行う検査分析士資格認定試験の受験者は微増でしたが団体試験は 6 月、8 月、2 月、3 月と 4 回開催することが出来ました。検査分析士会の会員を対象とする研修会は 6 月と 11 月に東京と大阪で開催しました。振興普及事業では、ブース出展をした CPHI12023、JASIS2023 でマーケティング支援を延べ 5 社に行い、米国で開催された Pittcon202 カンファレンスではブース展示での支援と共に昨年度まで休止していたランチョンミーティングを再開しました。通信販売事業はラボ用消耗品が今年も安定した受注を得たものの、吸光光度計関連商品の売り上げは販売店経由を含めて減少しました。一方で書籍の販売が増加したものの、全体では前年の売り上げを下回りました。

文化活動の概要

機器分析に関するエッセイを公募するナーチャー賞エッセイコンテストは今年度も秋に開催しコンテスト開催依頼最大の 31 名の応募者がありました。海外支援はタイ国の泰日工業大学に対して、日本語スピーチコンテストの賞金提供、日本語教育を行う先生向けにタイで入手が困難な日本語教育に関する図書の寄贈をしました。

今期のトピックス

検査分析士団体試験で初の上級試験を実施

初級、上級、特級と3段階の資格をもつ検査分析士資格の試験方法は今まで、初級試験については試験会場を設置した全国一斉に行う試験の他、3名以上の人数による希望日時、場所での団体試験を実施してきました。これに対して上級試験は初級試験と同時に行う一斉試験のみで、また特級試験は昨年度から一斉試験の合格者発表後に在宅で受験する方式としました。上級試験については今まで、試験の性格上、同時に3名を揃えるのは困難として募集をしてきませんでしたが、5名同時受験の要望が寄せられたため、検討の末に6月に初級・上級の団体試験を実施しました。この経験に基づき、来年度より正式に上級試験も団体受験を受け付ける予定です。

Pittcon2024 カンファレンスでランチョンミーティングを再開

Pittcon で毎年開催している日本からの展示会参加者に対するマーケティング支援のためのランチョンミーティングはコロナ感染症の蔓延防止のため2021年度から3年間休止していましたが、今年度は日本科学機器協会の協力により米国カルフォルニア州サンディゴ市で行われたPittcon2024で3年ぶりに再開しました。

Makers Modernity in Japan 2nd の発行

「Pittcon Hall of Fame」はそれまで湿式分析で行っていた化学分析を分析機器を使う機器分析に置きかえた立役者となった分析機器を実用化した創業者を顕彰したもので、毎年Pittconの開催に合わせPittcon Heritage Awardsとして1名が表彰されて加わり、現在31名が登録されています。当法人では2010年に「機器分析の創業者たち」という冊子を発行しました。これは、2005年に当時のChemical Heritage Foundation（現Science History Institute）から発行された「Makers of Modernity」という表彰者の伝記を集めた冊子の翻訳の許可を得、日本10名の創業者の伝記を加えて書籍としたものです。2010年以降に日本人の創業者の調査を継続し20名の創業者の伝記が出来ましたので、これらの日本人創業者の伝記を英文化して発行しました。尚、日本語版は機器分析の創業者たち第2版として2024年度に発行する予定です。

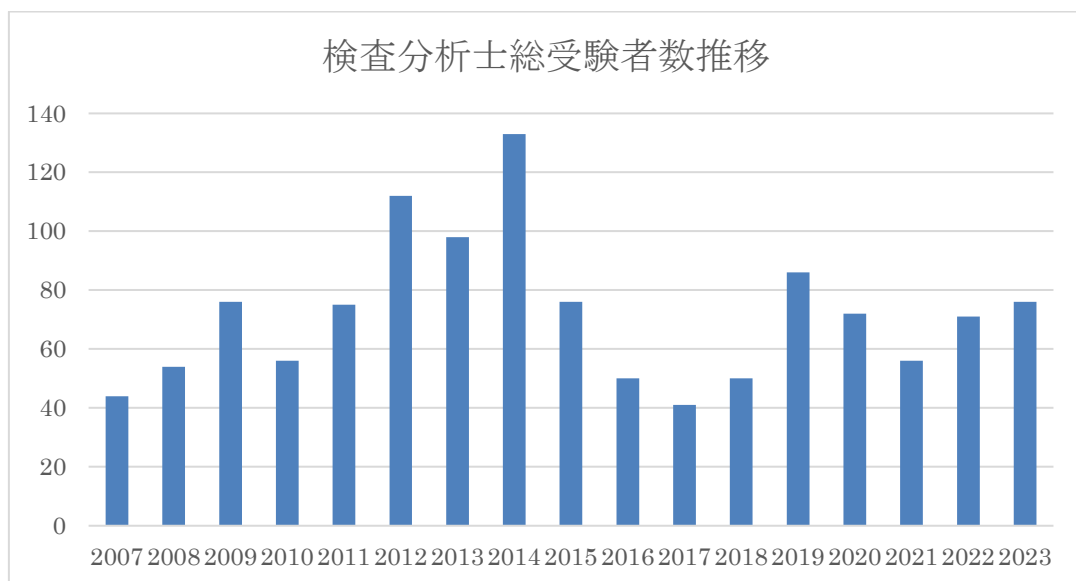
事業報告

I. 人材育成事業

当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して活動しています。

1. 資格認定事業

検査分析士と検査分析士マーケティングエキスパートの初級と上級の一斉試験を2023年7月28日の午後、昨年と同じ東京、名古屋、大阪、仙台の4都市で行いました。札幌と福岡については受講者がありませんでした。今年度は感染症のための自粛の影響はなくなりましたが、受験者は初級17名、上級1名に留まりました。昨年度より試験方法を変えた特級試験についての受験者はありませんでした。検査分析マーケティングエキスパートの受験者は東京で1名でした。一方、検査分析士初級団体試験の受験者は合計36名、上級5名また大学課程履修での受講者は23名でした。一斉試験の初級合格者は13名で合格率は76.4%でした。団体試験の合格者は27名、課程認定合格者は8名で計48名の方が検査分析士初級合格となりました。資格取得者が任意で参加する検査分析士会の研修会を6月と11月に東京と大阪で開催しました。



2. トリニティースクール事業（講習会・通信教育事業）

今年度も通年で通信講座を開設しました。資格試験のテキストを利用した検査分析士資格試験学習支援講座が今年も受講者数が一番多い講座でした。講習会は今年度も開催できませんでした。

Ⅱ．振興普及事業

当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して活動しています。

1．ビジネス支援事業

今年度は4月に開催されたCPHI展（国際開発医薬品展）と9月のJASIS展（最先端科学・分析システム&ソリューション展）にそれぞれ2ブース出展をし、延べ5社のマーケティング支援の展示代行を行いました。JASIS展ではPittconブースの支援も行いました。また、3月に米国のサンディエゴにおいて開催されたPittcon2024カンファレイスにブース出展とセミナーを1つ主催しました。また、4年ぶりに開催したランチョンミーティングでは27名の参加者に対して今年で75周年を迎えたPittconの展示会の特徴や歴史等を中心に紹介をしました。

2．ネットバザール事業（通信販売事業）

今年度も蛍光X線分析で使用するプラスチックフィルムは年間を通じて安定した受注がありましたが、アナログ吸光光度計はケニス社からの受注を含めても台数が減少しましたが、アナログ吸光光度計の組み立てキットの受注は昨年並みでした。書籍・冊子の受注件数は昨年よりも増加しました。

3．コンテンツ制作事業（出版及び動画制作）

英文のMakers of Modernity in Japan 2nd editionを2月に発行し、Pittcon2024でPittcon CommitteeとSHIの担当者に手渡しました。この冊子には明治時代から1950年までに生まれた分析機器を開発して製造を始めた創業者と機器分析に使う機材の供給を始めた創業者の計20名の伝記を記載しました。すべての創業者とその親族へのインタビュー等が出来たわけではありませんが、文献等も参考にして日本語で原稿を作成し、英訳をしました。機器分析の創業者たち第2版は英文版で作成した原稿と米国の創業者の伝記の日本語訳を纏めて機器分析の創業者たち第2版として令和6年度に発行する予定です。

4．簡易機器事業

昨年度に引き続き、確立した量産体制のアナログ吸光光度計の部品を利用した組立キット等の販売を行うとともに、デジタル表示の蛍光光度計、濁度計の開発、アナログ高校光度計を利用する化学物質の検出法についての開発を行いました。

Ⅲ. 文化活動

日本では「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって、タイ国では「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて活動を展開しています。

1. ナーチャー賞エッセイコンテストの開催

今年で 15 回目となる機器分析に関するエッセイを対象とするナーチャー賞エッセイコンテストは募集を 9 月に開始、告知を例年通り複数の募集サイトに掲載して行いました。11 月 26 日に応募を締め切り 31 名の方から応募がありました。応募者の内訳は新規が 19 名、リピーターが 12 名でした。新規応募者が多かったことから斬新な作品も多数ありました。受賞は大賞 1 名、優秀賞 3 名、スティディオス賞、ノヴィ・ホミネス賞、ファーストペンギン賞、カルチュラアナリティカ賞各 2 名、検査分析士会奨励賞各 1 名で受賞者は計 13 名でした。1 月 21 日に東京都千代田区のホテルマイステイズお茶の水で授賞式を行いましたが。受賞者は全国に散らばっているため、出席者は 2 名に留まりました。

2. タイの泰日工業大学 (TNI) の日本語スピーチコンテストの支援

コンテストは毎年、全学生が受講する日本語講座が終了する 3 年前期の終了時の 9 月に全学の学生を対象とするプレゼンコンテストと主に日本語ビジネスコースの学生を対象として 2 月に行われるスピーチコンテストがあります。今年の第 13 回プレゼンコンテストは 10 月 16 日に開催され 15 チームの中で予選を行い 10 チームが参加し「卒業後にしたい仕事とそのために現在学習する内容、就職したい企業とそのために必要なスキル」に関する内容のプレゼンで優劣を競いました。2 月の第 15 回スピーチコンテストは日本語能力試験 N3 以下と N2 以上の 2 つのグループに分かれて実施されました。N3 以下のコンテストに参加したのは 7 名で「私の幸せ」というテーマで、N2 以上のコンテストは自由テーマで 3 名が参加しました。

3. タイの泰日工業大学で日本語教師用に参考図書の寄贈

全学生に日本語学習の履修が行われる泰日工業大学の日本語教室にはタイ人と日本人の先生がいます。先生方は学生が履修するための教材を独自に作成していますが、教材作成の参考にする資料はほとんどが日本で出版されています。このためタイで入手することが困難な書籍もすくなくありません。日本語教室の先生方が希望すると図書を毎年、日本で調達して寄贈しています。

IV. 法人の運営状況

運営に関する業務は、東京都千代田区の事務所で行いました。

1. 組織

当法人の運営は理事会で経営方針、経営計画等を審議し、事業の具体的な活動方針は理事と正会員、及び外部の委員も加えた人材育成委員会、資格推進委員会等の委員会で方針を審議し、決定します。また当法人の具体的な実務は、理事会等で決められた方針、計画に基づいて事務局で行います。正会員だけでは対応できない検査分析士資格認定試験の問題作成等については必要に応じて外部に委託または会員とボランティアの専門家により実施しています。ナーチャー賞エッセイコンテストは応募者が倍増したため会員と外部の有識者による 14 名の審査委員により点数による評価を行い、選考委員会で選考を行いました。また、事務局は理事 1 名と職員 1 名の 2 名で行い、検査分析士の試験監督や展示会の展示要員等の一部はアルバイトに依頼しています。

2. 財務

当法人は外部資金に依存せずに会員からの会費収入と、当法人が行う事業収入により活動をおこなうことを目標にしています。しかし、会費収入と事業活動による収入に対して現在、展開している活動にかかる費用をすべて賄うことは今年度も出来ませんでした。このため今年は活動を持続するために不足する資金を理事を含めた会員の寄付による補充と共に、12 月に寄付の依頼を行い補充に充てました。

3. 投資

今年度は円安の影響でタイの泰日工業大学への支援や米国の Pittcon2024 への参加費用等の負担が大きく、開発につながるような投資は出来ませんでした。

4. 広報

当法人の広報は正会員・賛助会員と検査分析士会会員向けの季刊の会報誌の発行、一般向けにホームページは 3 ドメインを使って情報発信を行い、Facebook や X、Youtube、の他 E-mail News を発行しています。分析産業人ネットのホームページには、スクール事業の受講の申込、検査分析士資格試験の申し込み、ネットバザールでの消耗品等の販売、エッセイコンテストの募集等の機能を備えています。検査分析士ホームページでは機器分析に関する情報を中心にして情報を発信しています。

特定非営利活動法人分析産業人ネット

英文名 Professionals' Net Work in Advanced Instrumentation Society

設立 2004 年 11 月 24 日

事務所所在地 〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町 2 - 6 淡路ビル 4 F

電話 03-5294-3115 FAX 03-5294-3344 E-mail info@pai-net.or.jp